

はったつせいでいすれくしあただし 発達性ディスレクシアを正しく知ってください！

はったつせいでいすれくしあ わかも
～ 発達性ディスレクシアの若者たち(※)と

げんごちょうかくし えすてい おきむらかなこ し いただ けんしゅうかい
言語聴覚士(S T)沖村可奈子による知って頂くための研修会です～



ば お ば ぶ き はったつせいでいすれくしあ おお
バオバブの樹にはたくさんの発達性ディスレクシアのこどもたちがいらしています。その多くが、そのつらさにな
かなかきづいてもらえなかったり、やっとそうだんにこぎつけても「ディスレクシアじゃないと思う」ときやっかんてきひょうか
もせずに言われてしまったり、担任の先生に相談しても「もっとできない子はいますから、大丈夫ですよ」と言われ
たり、という経験を経ています。それでもきになる！とどり着いて下さった方々が、バオバブの樹にはたくさんおら
れます。一方で、相談した人に知識がないことで「もっと努力させなくては！」と、さらにもどもを追い詰めてしまう
方も少なくないのでは？と想像します。つらさをわかってもらえ、成果の上まらない理不尽な努力をさせられ続け
ることで、こどもたちはじぶんを責め、じしんをうしな、いきるちからをうしな
て、真剣に目を向けて頂きたいです。

そんな思いをすることもがなくなるように、1人でも多くの大人に正しい知識を持ってもらいたい！
インターネットの不確かな知識ではなく、当事者の真実の声を聞いてください。

(※)語ってくれるのは、沖村が発達性ディスレクシアについての客観的な評価を行い、その結果に基づいた支援や
合理的配慮について本人と相談し、必要に応じて認知特性に沿った練習を行ったり、自己理解を深める話し合いな
どを継続して行ってきた若者たちです。8名前後参加予定です。

き記

◆ 日時 : 2023年1月29日(日) 13:15～16:00 (開場13:00)

13:15～14:45 発達性ディスレクシアを知って頂くための研修会

15:00～16:00 当事者の若者たち(必要に応じて沖村も)が、事前に頂いた質問に答えます
質問の量により多少延長するかもしれませんが、会場予約が17:00
までのため16:30終了必須とさせていただきます。

◆ 場所 : 茅ヶ崎市青少年会館 2階 ホール

茅ヶ崎市十間坂3-5-37 (J R 茅ヶ崎駅北口から徒歩12分)

◆ 参加費 : 2,500円

◆ お申込み : 下記URL又はQRコードを読み取って、Googleフォームからお申込みください。

<https://forms.gle/42Qt69PePpegxyey8>

◆ お支払い : 銀行振込 (お申込み後10日以内にお支払いいたします)

横浜銀行 辻堂支店 普通 6002211

トクビ) ハッタツサポートネット バオバブノキ



◆ その他

- キャンセルの場合、参加費の返金はいたしません。あらかじめご了承ください。
- バオバブの樹の会員で、個別やグループ療育の予約がある方は、その際に現金でお支払い頂く
こともできます。上記Googleフォームで予約日をお知らせください。

お問い合わせ : baobab_chigasaki@yahoo.co.jp

これまでに受講した皆様から、こんな感想をいただいています！

「わたしは今22才で、12年間の学校生活のほとんどを、学校に行かず家ですごしていました。なので、みっきーさんやまこさんたちのお話や、かんがえを聞いてアカベコのように、うなずきまくってました。わたしも、学校特有の「みんな、同じじゃないといけない」みたいな雰囲気、ほんっと———に好きじゃなかったです。でも、なにも行動にうつせないまま、過ごす日々でした。皆さんが勇気を振りしぼって、こうしてほしい！と意見を伝えたり、皆さんのトクイなこと、好きなことを活かして学習の工夫をする姿勢、かっこいいな—とおもいました！！誰にだって、得意・不得意あるのなんて、あたり前だし、みんながそれを認めあって、手をさしのべられるような社会になってほしいです。ほんっつとに！！」

「当事者の思い、支援者の思い、よく伝わりました。言葉に力があるのでしっかり理解できました。その分、現実との差が大きくて、大人の一人、教育関係者の一人として胸に刺さるものでもあります。もうひとつ、よく分かったことは、当事者が理解し受け入れるには長い時間がかかること、そこに寄り添う支援者が必要であることです。腹の底にずっしりと重いものが入った感じがします。貴重な機会をくれた沖村先生と若者たちに感謝します。」

「4月から復職し、小学校で働いています。久しぶりに現場へ戻り感じたことは、国語だけでなく学校生活全体を通して読み書きすることが多いと思っています。今日のお話を聞いて苦痛でしかないと感じたので、個に応じた支援の大切さを改めて胸にとどめ明日から働きたいと思いました。その子に合ったやり方を、本人、保護者としっかりと話し合い、学校が楽しい！！と思える毎日にしたいです。」

「みなさんの経験を聞いて、明日からの授業、私にはどんな工夫ができるだろうか…と考えさせられました。テストをつくるときに、記述が多いので、選択問題を増やしたり、ふりがなつきのプリントの配布など明日からできることをどんどん取り入れていこうと思います。」

「中学校で仕事をしています。教育現場ではディスレクシアについての理解がない（理解する気がない）先生がまだまだ多いというのが現状です。現在、合理的配慮が必要な生徒について、学校全体でどう取り組んでいくか、進めていくことに悩んでいて（提案しても、抵抗したり反対する先生がいるので…）なんだかずっとモヤモヤしていたのですが…今日は沢山のヒントを頂きました。」

「『正しく書ける、よめるは学びの本質ではないはず』という言葉に深く考えさせられました。こどもたちの「一緒にやり方を考えてほしかった」という生の声を聞かせて頂き、ありがとうございます。現在私は子育て中なので、この視点を大切にしたいと思いました。」

「中学校の職員ですが、本日のお話、座談会を通して、日々見過ごしてしまった生徒やつらい思いをさせてしまったこどもたちがいたのではないかと感じました。私の目の前にいる生徒たちの中でも苦しんだり困ったりしている子がいることに少しでもベクトルを向け、学習の本質からそれないよう、支援と配慮を考えていきたいと思っています。この会に本音をさらけ出してくれた若者のみなさん、本当にありがとうございます。それぞれの方々が、しっかりと考えをもたれ、自分のことばで発表されていて素晴らしいと思いました。」